

企業動向調査にみる景況感(福岡県、熊本県、長崎県)

米国のサブプライムローン問題に端を発した世界的な金融危機により、日本においても急速に景気後退の動きが顕在化しています。このレポートでは、2008年10月に実施したBSIアンケートをもとに、福岡県、熊本県、長崎県の企業景況感の動きを報告します。

【調査の概要】

1. 調査の対象

- (1)福岡県、熊本県、長崎県の3県に所在する企業。
- (2)各県の業種別構成比を基に無作為抽出
 - ・福岡県998社(回答企業224社、回収率22.4%)
 - ・熊本県501社(回答企業114社、回収率22.8%)
 - ・長崎県640社(回答企業302社、回収率47.2%)

2. 調査時点：2008年10月中旬

3. 調査方法

(1)調査対象期間

2008年7～9月期：実績、10～12月期：見込み、2009年1～3月期：予想

(2)分析方法

各期について、前年同期と比較して業況が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた指数(BSI[Business Survey Index])を基に経済動向を予測。

(3)その他

福岡県及び熊本県の企業については2008年4～6月期より調査を開始しており、2008年1～3月期以前のデータはありません。

*特に断りのない限り4～6月期、7～9月期、10～12月期は2008年。1～3月期は2009年とします。

【調査結果の概要(産業天気図)】

		2008年7～9月期(実績)		2008年10～12月期(見込み)		2009年1～3月期(予想)	
		業況	BSI	業況	BSI	業況	BSI
福岡県	全産業		20		34		37
	製造業		14		29		27
	非製造業		25		38		45
熊本県	全産業		21		41		50
	製造業		26		35		44
	非製造業		18		45		55
長崎県	全産業		25		27		37
	製造業		16		17		29
	非製造業		28		31		40

天気	業況BSI
	50以上～100
	25以上～50未満
	0以上～25未満
	25以上～0未満
	50以上～25未満
	100～50未満

1. 福岡県内企業の景況感

7～9月期は小幅悪化、10～12月期には大幅な悪化を見込む

7～9月期で景況感は小幅悪化した後、10～12月期で大幅な悪化を見込むなど、厳しい結果となっています。続く1～3月期について、製造業はほぼ横ばい、非製造業は更に悪化すると予想しており、厳しい状況が続いていく模様です。

福岡県内企業の景況感を業況BSIをみると、全産業ベースで7～9月期 20と、4～6月期と比べ3ポイント低下しました。続く10～12月期は 34と、さらに14ポイント低下するなど、10～12月期には急速に悪化する見込みです。

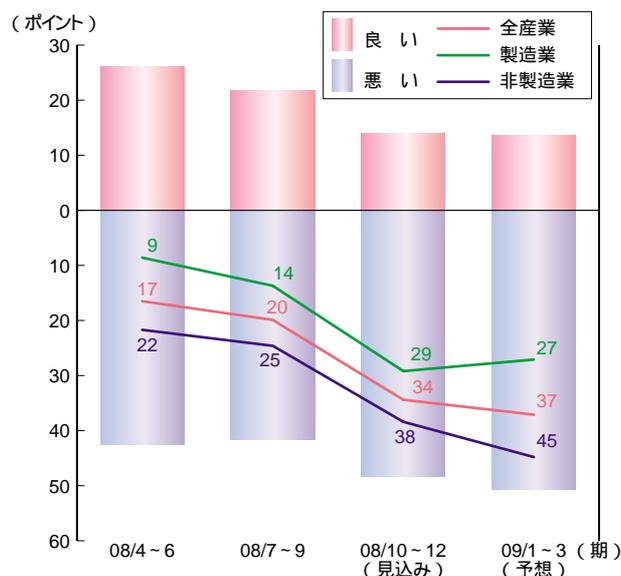
製造業と非製造業とに分けて動きをみると、製造業は7～9月期 14と、前期比5ポイント低下しました。業種別にみると、電子部品・電気機械や鉄鋼・非鉄はプラスに転じたものの、化学・石油製品が100ポイント以上悪化したことなどにより、全体を押し下げました。

一方、非製造業の7～9月期実績は、4～6月期と比較して卸売業、サービス業などで改善

福岡県の回答企業の業種別構成

業種	企業数	構成比(%)
製造業	97	43.3
食料品	17	7.6
化学・石油製品	8	3.6
生コン	12	5.4
鉄鋼・非鉄	14	6.3
金属製品	15	6.7
一般機械	13	5.8
電子部品・電気機械	12	5.4
輸送用機械	6	2.7
非製造業	127	56.7
建設業	40	17.9
卸売業	21	9.4
小売業	22	9.8
不動産業	11	4.9
運輸・倉庫業	12	5.4
ホテル・旅館業	10	4.5
サービス業	11	4.9
合計	224	100.0

図1 業況BSIの推移



しましたが、小売業、ホテル・旅館業などでは大きく悪化し、非製造業全体は 25に低下しています。

先行きの景況感については、製造業で7～9月期以降 14 29 27、非製造業では同 25 38 45と、1～3月期までマイナス幅の拡大が続くと予想されます。

このように、県内企業の景況感は、製造業、非製造業ともに7～9月期まではプラスの業種もみられましたが、10～12月期には全ての業種でマイナスとなるなど、非常に厳しい状況が続くようです。

業種別にみた業況BSIの特徴

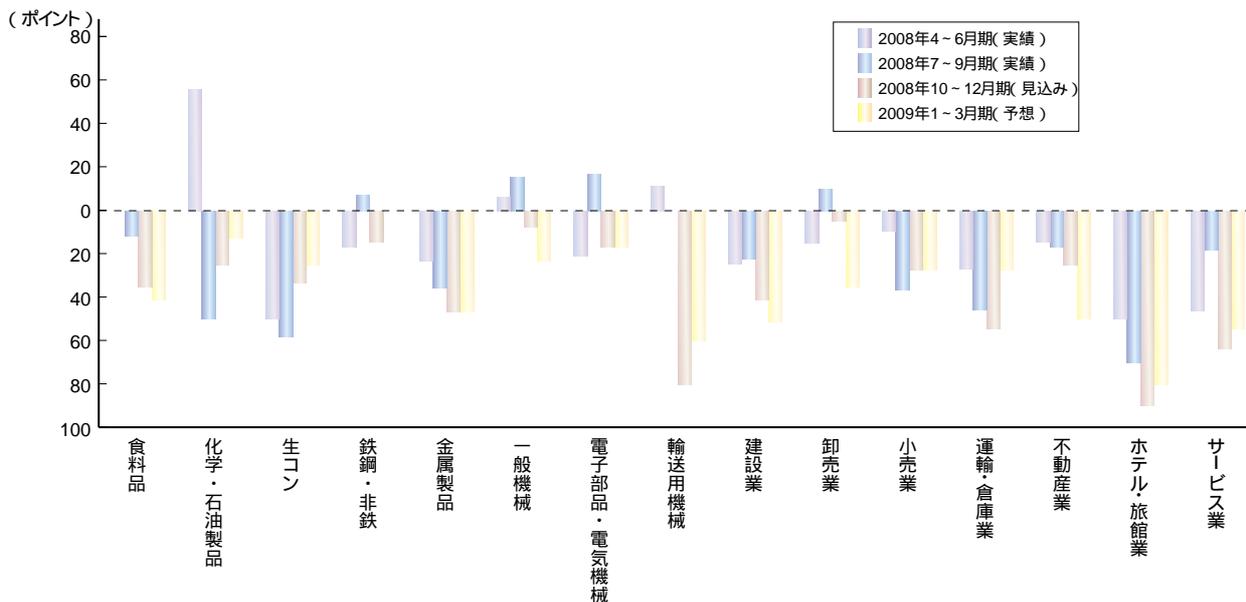
<製造業>

製造業の主な業種について7～9月期の実績をみると、4～6月期は56と高水準にあった化学・石油製品が 50へと急速に悪化しました。しかし10～12月期以降は 25 13と、原油価格急落等によりマイナス幅は徐々に改善する見込みです。

輸送用機械は4～6月期11とプラス水準だったのが、7～9月期以降は 0 80 60と10～12月期に急速に悪化した後、1～3月期でやや持ち直すと予想しています。

鉄鋼・非鉄、一般機械、電子部品・電気機械は

図2 業種別業況BSIの状況



7～9月期に改善し、プラス水準となりました。しかし、10～12月期は、鉄鋼・非鉄は7 14、一般機械は15 8、電子部品・電気機械は17 17へと、全てマイナスへ転じています。

食料品と金属製品は、各々4～6月期以降1～3月期にかけて±0 12 35 41、23 36 47 47と、指数は悪化で推移しています。

<非製造業>

非製造業において、4～6月期比改善した業種は建設業、卸売業、サービス業の3業種です。卸売業は指数自体も10とプラスに転換しましたが、それ以降は10 5 35と悪化が見込まれています。建設業は23 41 51、サービス業は18 64 55と、ともに10～12月期は悪化を見込んでいます。

特に、悪化の水準が著しいのはホテル・旅館業で、7～9月期以降70 90 80と、10～12月期は9割が悪化と回答する非常に厳しい結果となっています。

小売業は36 27 27と、マイナスの水準ながら、10～12月期の業況は前期よりも改善する見込みです。

2. 熊本県内企業の景況感

好調だった業種の落ち込み大きく、10～12月期以降も厳しさ続く

化学・石油製品や輸送用機械、卸売業など、4～6月期までは好調だった業種が7～9月期に大きく悪化し、10～12月期以降、製造業、非製造業ともに厳しい予想となっています。

熊本県内企業の業況BSIをみると、全産業ベースで7～9月期は21と、4～6月期に比べ11ポイント低下、続く10～12月期は41と、さらに20ポイント低下する見込みです。

製造業の動きをみると、7～9月期は26(前期比-20)と悪化し、その大きな要因は、化学・石油製品と輸送用機械の悪化によるものです。また、10～12月期では35(同-9)となる見込みです。これは、食料品と金属製品の低下によるものとなっています。

非製造業の7～9月期は、小売業が大きく好転したことなどで、全体では製造業ほどの落ち込みはなく、前期比5ポイント悪化の18にとどまりました。しかし、続く10～12月期の落ち込みは製造業以上に厳しく、小売業、卸売業、運輸・倉庫業が大きく悪化し、全体で27ポイン

熊本県の回答企業の業種別構成

業 種	回答企業数	構成比 (%)
製 造 業	46	40.4
食 料 品	9	7.9
化学・石油製品	6	5.3
生 コ ン	7	6.1
金 属 製 品	5	4.4
一 般 機 械	12	10.5
電子部品・電気機械	1	0.9
輸 送 用 機 械	6	5.3
非 製 造 業	68	59.6
建 設 業	19	16.7
卸 売 業	8	7.0
小 売 業	10	8.8
不 動 産 業	9	7.9
運 輸 ・ 倉 庫 業	9	7.9
ホ テ ル ・ 旅 館 業	5	4.4
サ ー ビ ス 業	8	7.0
合 計	114	100.0

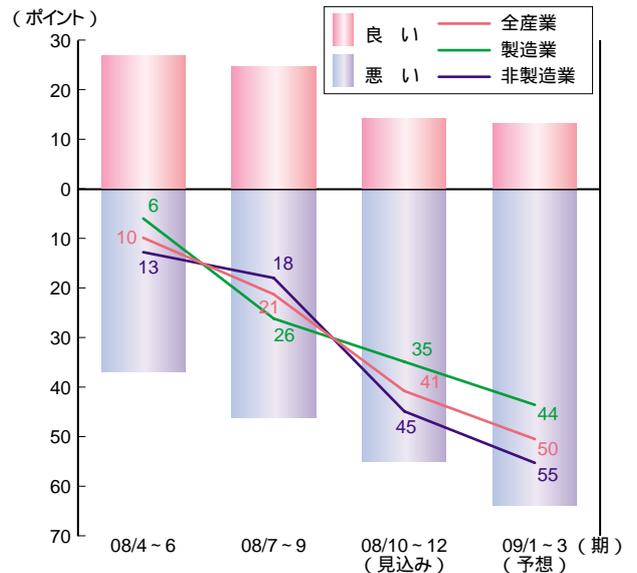
ト悪化の 45となりました。

業種別にみた業況 BSI の特徴

< 製造業 >

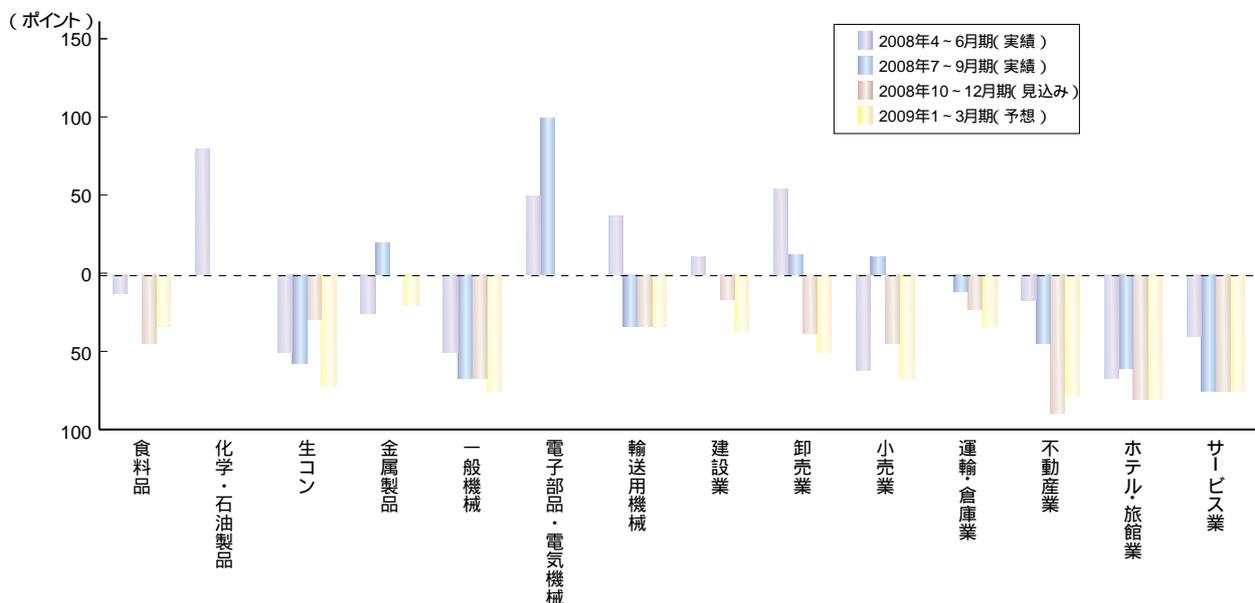
製造業の主要業種の動きをみると、化学・石油の7～9月期は原油価格の下落などによる影響で、指数は±0(前期比-80)となりました。10～12月期以降も±0を維持すると見込んでいます。輸送用機械の7～9月期は売上げの減少とともに33(同-71)まで低下し、10～12月

図3 業況 BSI の推移



期以降も 33で推移することを見込んでいます。製造業のなかで特に好調だった2つの業種でしたが、悪化の程度も他の業種よりも大きくなっています。既に指数がマイナス水準だった一般機械は、7～9月期でも67(同-17)となり、10～12月期以降は67 75とさらに低下すると予想しています。金属製品もマイナス水準にありましたが、7～9月期は採算性の向上により改善し指数は20(同+45)となりました。10～12月期以降は0 20と、1～3月期は悪化すると予想しています。食料品もマイナス水準でしたが、売上高の増加により7～9月期は±0

図4 業種別業況 BSI の状況



(同+13)となりました。しかし、10～12月期以降は 44 33と、大きく落ち込んだ後、やや改善すると予想しています。

<非製造業>

非製造業の主な業種について7～9月期の動きをみると、建設業は売上や受注の減少により±0(前期比+11)となり、10～12月期以降も16 37と悪化が見込まれています。小売業は採算の改善により指数は11(同+73)となりました。しかし10～12月期以降は一転して 44 67と大幅な悪化に転じることが見込まれています。卸売業は採算の悪化に伴い指数は13(同-42)と悪化しました。10～12月期以降はさらに売上の減少などで、38 50へさらなる悪化を見込んでいます。不動産業は 11 22 33と、先行き徐々に悪化していくと予想しています。運輸・倉庫業、ホテル・旅館業、サービス業は10～12月期以降の指数の水準が 75を超える厳しいものになっています。

3. 長崎県内企業の景況感

7～9月期までは改善傾向で推移し、10～12月期以降徐々に悪化の動きが広がる

輸送用機械が好調を維持するなど、製造業、非製造業ともに7～9月期までは改善、現状維持で推移したものの、10～12月期以降、徐々に悪化の動きが広がっています。

長崎県内企業の景況感を業況BSIを基にみると、全産業ベースで7～9月期は前期比1ポイント改善し 25となりました。10～12月期では2ポイントの悪化にとどまっています。

製造業と非製造業別にその動きをみると、製造業の7～9月期は 16(前期比+3)となりました。採算性の改善により繊維製品、土石、輸送用機械などの業況BSIが改善したことが要因です。続く10～12月期ではほぼ横ばいを見込んでいます。繊維製品が大きく指数を下げていますが、食料品、土石、電気機械等は改善した

長崎県の回答企業の業種別構成

業 種	回答企業数	構成比(%)
製 造 業	89	29.5
食 料 品	17	5.6
織 維 製 品	5	1.7
窯 業	4	1.3
土 石	15	5.0
鉄 鋼 ・ 非 鉄	5	1.7
金 属 製 品	11	3.6
一 般 機 械	8	2.6
電 気 機 械	3	1.0
輸 送 用 機 械	11	3.6
そ の 他 製 造 業	10	3.3
非 製 造 業	213	70.5
漁 業	7	2.3
建 設 業	40	13.2
卸 売 業	51	16.9
小 売 業	38	12.6
運 輸 ・ 倉 庫 業	22	7.3
不 動 産 業	10	3.3
ホ テ ル ・ 旅 館 業	15	5.0
サ ー ビ ス 業	29	9.6
そ の 他 非 製 造 業	1	0.3
合 計	302	100.0

ほか、その他の業種の低下幅が小さかったためです。

一方、非製造業の7～9月期は 28と前期の4～6月期と同水準となりました。これはマイナス水準ながら、小売業の指数が改善したこと、卸売業、運輸・倉庫業が堅調に推移したことなどによるものです。悪化が顕著だったのは漁業で、売上、採算性の低下が進んだことによるものです。続く10～12月期の指数は、31(同-3)を見込んでいます。不動産業の悪化や、運輸・倉庫業の改善といったはっきりとした動きもありますが、ほとんどの業種はやや悪化することを見込む緩やかな動きが特徴となっています。

業種別にみた業況BSIの特徴

<製造業>

製造業の主要な業種について7～9月期以降の動きをみると、これまで好調な輸送用機械は27 9 0と、09年1～3月期にはプラス水準

から0へと低下が予想されています。一般機械は13(前期比-27)となり、以降も13 38 63と悪化する厳しい予想となっています。7~9月期でプラス水準にあった鉄鋼・非鉄は20 20 20、金属製品は27 18 27と、1~3月期ではマイナスへの転落が予想されています。業況BSIが厳しい繊維製品は40 100 40と、10~12月期はさらなる厳しさを見込み、土石は47 27 53と一進一退を予想しています。食料品は29 12 12と、マイナス水準ながら改善すると予想しています。

<非製造業>

7~9月期の業況BSIをみると、全ての業

種がマイナスもしくは±0の水準となっています。厳しい水準にあるのは建設業、運輸・倉庫業、サービス業です。7~9月期以降、運輸・倉庫業は41 27 27と改善を見込んでいますが、建設業は43 45 53、サービス業は36 36 43と先行き徐々に悪化することを予想しています。4~6月期では14とプラス水準にあった不動産業は、7~9月期以降0 33 44とマイナスへと転じると予想しています。そのほかの業種についても、卸売業26 26 33、小売業16 26 37、ホテル・旅館業27 27 53と、3業種ともに1~3月期にかけての予想は、徐々に厳しさを増すものとなっています。(島浦 誠)

図5 業況BSIの推移

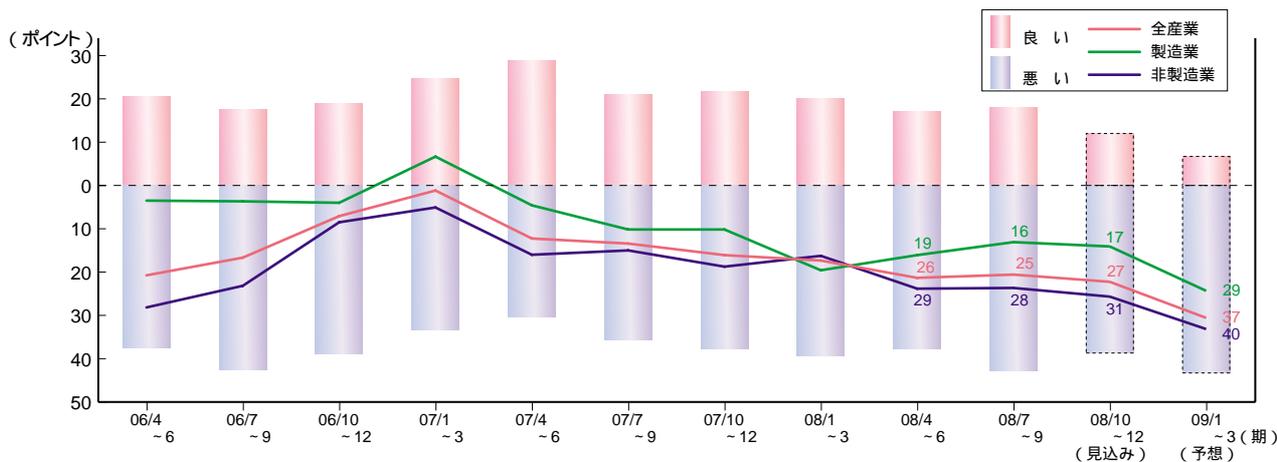


図6 業種別業況BSIの状況

